

春季 県高校野球

第4日

春季県高校野球選手権は第4日の23日、八戸市の長根公園野球場で準決勝2試合を行った。八工大一は八工大二に8―5と逆転勝ちし、2014年度以来7年ぶりの決勝進出。八学光星は延長十回、4番中江の適時打で東奥義塾に競り勝ち、18年度以来3年ぶりの決勝に進んだ。最終日の24日

は、同球場で八工大一―八学光星の決勝と、八工大二―東奥義塾の3位決定戦を行う。上位2校が出場する予定だった東北大会は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止となった。
(本紙取材班)



【八学光星 東奥義塾】1点を追う2回から登板し、5回を被安打1の快投で勝利に貢献した八学光星・森（八戸市長根公園）

光星 延長戦制す

東義、初回の3点止まり



延長10回表、八学光星1死一、二塁、中江が中前に適時打を放ち4―3と勝ち越す。捕手・後藤

投手奮闘に報いる
○…苦しみながらも決勝への切符を手に入れた八学光星。延長で勝ち越しの適時打を放った中江は「投手陣が頑張ってくれていたので、良いところ打って良かった。3打席続けて無安打に終わっていただけに、大振りになっていた打ち方をコンパクトに振るよう心掛けたという。一対

2番手の森が5回8奪三振の好投を見せ、続く洗平も安定した投球で追加点を許さなかった。打線は四回以降、得点を挙げられなかったが、延長十回、中江が中前適時打を放ち、決着をつけた。東奥義塾は延長十回、二死満塁の好機をつくたが、ものにする事ができなかった。

「2番手の森が5回8奪三振の好投を見せ、続く洗平も安定した投球で追加点を許さなかった。打線は四回以降、得点を挙げられなかったが、延長十回、中江が中前適時打を放ち、決着をつけた。東奥義塾は延長十回、二死満塁の好機をつくたが、ものにする事ができなかった。」と力を込めた。